

# せる信頼関係こそ

## たな役

医療法人南労会紀和病院

### 化和ブレスト(乳腺)センター

(和歌山県橋本市)



関係づくりにも力を注いでいる。 関係づくりにも力を注いでいる。 関係づくりにも力を注いでいる。 フレスト(乳腺)センターを開設した。 で見りにも力を注いでは地域ニーズに応じたが見いません。 が果内屈指、と称される で見りにも力を注いでいる。 関係でくりにも力を注いでいる。



取り組みで全国的に知られている。(212床)。とりわけ、充実した緩和ケアへの療福祉課題に取り組む医療法人南労会紀和病院で入所・在宅介護サービスと、幅広く地域の医工次救急を含む急性期医療から回復期、そし

労会の松浦良和理事長だ。 が現代の病院経営です」と語るのは、医療法人南特色ある医療を確立しなければ生き残れないの充実させるだけでも大変なのですが、加えて、ディジーズ。その内容は実に奥深く、これらを「地域の中小医療機関が主体とするのはコモン

るソフト、つまり医療内容の充実だ。成したとし、現在、最も力を注ぐのは、提供すてきた。こうしたハード整備は一定の目標を達能の分離を軸とした医療提供体制の充実を進め外来機能を門前診療所に集約するなど、施設機

乳腺にかかわる検診、診断・治療、術後サポートさせるのが原則です。この一環として昨年9月、はなく、この地域で最も必要とされる分野を充実「当然、われわれが取り組みたい医療をするので

医2人を擁する施設は同センターのみだ。 専門治療施設の絶対数の不足だ。特に和歌山県専門治療施設の絶対数の不足だ。特に和歌山県専門治療施設の絶対数の不足だ。特に和歌山県

そもそも他のがんと違い乳がんは、10年間、場合によってはそれ以上の経過を診ていかなけ 顕著になる。しかし、こうした病院は、医局人療、となると、患者は基幹病院を選択する傾向が療、となると、患者は基幹病院を選択する傾向が がん治力である。しかし、こうした病院は、10年間、

で意味があります」と松浦理事長は胸を張る。これを実現するブレストセンターの開設は大きのないよう最後まで診る施設がもっと必要です。

が重要」と、同センターの役割を説明する。
る治療が受けられる環境を地域に構築することさらには、最新のエビデンスを学ぶ専門医によ師が継続して患者さんを診続ける環境の構築。就任した梅村定司医師だ。梅村センター長は、「医

総合的に提供する体制が重視されている。 でれの分野の専門性が求められ、さらにこれを分子標的治療薬)、リハビリテーションと、それ分子標的治療薬)、リハビリテーションと、それが珍しくなかった。しかし近年、同分野は著しが珍しくなかった。しかし近年、同分野は著しが珍しくなかった。しかし近年、同分野は著しが珍しくなかった。

5 フェイズ・スリー 2010.9

### 医療法人南労会 紀和病院

T648-0085

和歌山県橋本市岸上 18-1 TEL:0736-33-5000

FAX:0736-34-2614

http://www.nanroukai.or.jp/

病床数:212(一般99床、障害者施設等一 般病棟50床、回復期リハビリテーション病棟

47床、緩和ケア病棟16床)

診療科目: 内科、消化器科、呼吸器科、循環器 科、外科、乳腺外科、脳神経外科、整形外科、 皮膚科、泌尿器科、神経内科、放射線科、リハ ビリテーション科、麻酔科

主な関連施設:紀和クリニック、みどりクリニッ ク、ケアプランセンター紀和、訪問看護ステー ションウェルビー、小規模多機能森のこかげ、 ショートステイ花梨、紀和リハビリ倶楽部など

### 【沿革】

1975年、林業労働者のための医療施設とし て紀和病院を開設。2005年、新病院を開 設。同時に、全国でもトップレベルの療養環境 を構築した緩和ケア病棟を開設。08年、門前 に外来機能を集約した紀和クリニックを開設。 09年、紀和クリニック内に紀和ブレスト(乳 腺)センターを開設。リハビリテーションを軸と した地域医療を展開している。



ションを行い、 患の早期発見、

ご自宅に帰って 的確な治療、

ただく。

この

入院・リハビリ

一連の流れを

なく提供できるかがわ

地域の方

の生活

が損なわれないよう、

さらに豊かになる

していきたい」

れわれに課せられた役割です。

院していただくことにつながります。

後は、

疾

地域医療の核心です。

それがあってはじめて来

信頼関係を築くのが

「住民と膝をつき合わせ、



↑暖色で統一されたリラックスできる化学療法室



「地域に求められる医療の充足に 全力をあげたい」と語る松浦理事長

-紀和病院の外来機能を集 約させた紀和クリニック



↑1階に配置された緩和ケア病棟。専用の入り口を設置し、病院 から独立したくつろげる空間を形成。全国から見学者が訪れる

玉置医師は語る。 き上げないと、 検診の効果は発揮されにくい」と

MRマンモグラフィ **診環境の整備、そして乳がんの周知に心を砕く** このため同センターでは、 日中の診療時間に加え夜間 (18時~ 働く女性が乳がん検診を受けやす また、 最新のマンモグラフィ 女性に配慮した受 ム生検によ

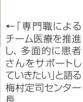
誤していますが、女性の心はなかなかつかめま うした地道な活動が実を結び、 せんね」と梅村センタ 地域に駆けつけ、 です」と梅村センター長は、多忙な業務を縫って がんそのものを知ってもらうことが組織の両輪 る検査では、女性技師が対応している。 もっと多くの方に来ていただきたい。 検診・治療という受け皿を整える、 年内に20もの講演予定があるという。 出張講座を実施している。 長は笑顔を浮かべる。 確実に受診者は そして乳 試行錯

増加しているという。 る松浦理事長は次のように語る。 待つ医療ではなく 、出かけていく医療、を掲げ

←最新のMRマンモグラフィーを導 入。 通常のX線マンモグラフィーと 異なり痛みがなく、がんの広がりが 詳しくわかる



→「しこりにならな いような早期の段 階で見つけられる 環境づくりが大 切」と語る玉置剛 司副センター長





県内屈指の体制を構築し

国際レベルの乳腺治療を 地域で展開

ンパ浮腫の予防に長けた理学療法士、 このため同センターでは、 乳がん看護認定看護師合格者をはじめとす さらに抗がん剤に精通した薬剤師、 マンモグラフィ 2人の専門医を軸 ·専門の女性技

2010.9 フェイズ・スリー 6

検診から治療、 る幅広いサポー 「乳腺分野に秀でた専門職を充実させることで、 術後のリハビリ ショ ンに至

式を取り入れている医療機関は国内に2施設の 音だろう。 標準治療にしていくこともめざしている。 み。良好な成績を背景に同院では、この術式を **房再建が可能だ。これは女性にとって大きな福** 脂肪が安定して定着するため、 せる術式。真皮と大胸筋の間に新生血管ができ、 腹部の脂肪と真皮を取り出し、 **肪片移植による乳房再建術」の実施だ。これは、** 取り組む。その代表と言えるのが、「遊離真皮脂 センター長は語る。 体制充実の一方で、 乳房の大半を切除するケースで同術 トを行うことができます」と梅村 先進的医療にも積極的に 極めて自然な乳 大胸筋に定着さ

てこれだけの受診率です。 パでは約80%。 「乳がん検診の無料ク リカで60~70%。 せめて50%にまで引 ンを国が配布してい 日本では20%ほどで

診の受診率は、 切るのは、 乳がんの死亡率を減らすための活動です」と言

玉置剛司副センター

長だ。

乳がん検

口

ッ

大きな役割。

しかし、これにも増

して重要なのは、

「いわば世界レベルの医療提供も当センタ

0)

7 フェイズ・スリー 2010.9